



HIGA 文化講演会

「コミュニケーションギャップと言葉の意味

～同時通訳者の体験を通じて～

宮本 順子（英語会員）



講演者の谷本氏

2月21日アステールプラザにて「コミュニケーションギャップと言葉の意味～同時通訳者の体験を通じて～」と題し当協会主催の文化講演会が開催されました。広島大学大学院総合科学研究科准教授・同時通訳者の谷本秀康氏をお迎えし、一般・HIGA 会員合わせて約100名が参加しました。

冒頭、“Can you hear me?”（少し小聲で皆が）“Yes!” “Really? I can't hear you clearly. Can you hear me again?”と繰り返し聞かれ、今度は会場全体で “Yes, you can! Yes, we can!” と唱和し、オ

バマ大統領さながら、聴衆の心をぐっと掴んで講演が始まった。

まずは、英語との出会いについて語られましたが、意外にも中学入学後とのこと。但しこの時期に生の英語に触れ、NHK講座を利用して何度もまねて勉強されたそう。「学ぶ＝真似ぶ」、つまり真似ることから始めるのが一番大事だと強調された。1969年に大きな二つの転機。アポロ11号の月面着陸があり、西山千、國弘正雄、村松増美氏などの同時通訳者が活躍し、初めて同時通訳という言葉を知ったこと。もう一つは、大学受験で第1・2志望の大学に落ちたものの第3志望の京都外国語大学で岩田先生という恩師と出会ったことである。同時通訳の試験を受け、100名以上の希望者の中から20数名という枠の中に最年少の一人としてコースに入られた。そこでフランス語から英語に同通が出来るほどの元米国務省通訳でもあった恩師の薫陶を受け、真似て真似て真似て真似たようだ。やはり語学を学習する場合には、いいもの、本物をインプットするということが大事なのだ。

本論に入り、「通訳者とは？」という話題の中で、通訳にもピンからキリまでいて、同時(どうじ)通訳ならぬドジ通訳(simultaneous interrupter)がいるとのジョークは一同に受けた。「言葉の本質とは何か？」ということで、言葉は音と密接につながり、それは息すなわち命と結びつく重要なものであるから、十分注意を払って言葉を発さないといけないとも話された。

言葉の意味には3つのレベルがあり、1. 辞書的意味: lexical meaning、2. 構造的(文法的)意味: structural (grammatical) meaning、3. 社会的文化的意味: socio-cultural meaningについて様々な例文をあげて解説して下さった。更に逐次通訳・同時通訳について。「こまぎれ、つなぎ、逃げ」といったテクニックを披露。最後に「何でも訳せるか？」ということで、同音異義語、直訳・意識の落とし穴など教えていただいた。

会場の皆が谷本先生の美声に酔い、まだまだ聞き足りないと思いながら、盛会のうちに終了となった。



会場の様子

HIGAの活動報告 (2009年1月~7月)

- 1月25日(日) 通訳ガイド新人研修(実地)
- 2月14日(木) 第5回世界史講座「中国史2 - アヘン戦争から辛亥革命まで」
- 2月21日(土) 文化講演会「コミュニケーションギャップと言葉の意味」
- 3月1日(日) 午前 第3回学習会「食を知る」
午後 体験学習会 日本伝統文化講座「着物を着る・帯を締める際のポイント」
- 4月25日(土) 2009年度第17回通常総会



第17回通常総会後の出席会員

ホテルサンルートにて。ご来賓・会員合わせ出席者79名。中国運輸局企画観光部部長 元野一生氏、及び広島県商工労働局産業振興部観光課課長 下村節子氏よりご挨拶。報告・審議が滞りなく行われ、引き続き懇親会にて交流。

- 5月14日(木) 第1回世界史講座「中国史3 - 文学革命から第2次世界大戦の終結」
- 6月7日(日) 通訳ガイド新人研修(座学)
- 6月13日(土) IT講座第1回「パワーポイント」
- 6月14日(日) 第1回学習会「日本人の習慣~ゆりかごから墓場まで」
- 7月9日(木) 第2回世界史講座「中国史4 - 中華人民共和国の歴史」

HIGA 新人研修

2008年度 実地研修

1月25日(日) 宮島、平和公園、縮景園にて新人研修が行われました。この研修は、6月に行われた座学に引き続く、実地での研修でした。当日は、日陰に前日の雪がところどころ残る寒い日でしたが、熱気のある充実した研修となりました。

まず、10時30分宮島口フェリー乗り場に集合。中井泰子会員を講師に、事務局から2名の方と新人会員14名で出発しました。フェリーに乗船する段階から研修は始まり、厳島神社までの道中、さらに社殿の中でも、講師は時計を気にしながらも実に多くのポイントで説明して下さいました。新人たちは小走りで追いかけ、一生懸命メモをとりました。大願寺を経て、正午前にレストランはやかに到着。焼き牡蠣のサービス付きの昼食をいただきました。

昼食後宮島口に戻り、13時に貸切バスに乗車。平和公園へ向かいました。平和公園では原爆ドーム、相生橋、時計塔など数々のモニュメントをまわりながら、説明のポイントを教わりました。

その後、14時30分に再びバスに乗車して縮景園へ。ここでは多少時間にゆとりもあり、ゆっくりと庭を楽しむことができました。HIGAマニュアルにある「鶴の形の島」とはどの島のことなのかについて皆で盛り上がったりしながら、16時に研修を終了しました。この頃になると、新人たちの間から「今日はよく歩いたねー」と足腰の疲れを訴える声も聞かれ、ガイドとしての体力の重要性をも実感することとなりました。



宮島での実地研修

今回の実地研修を通して改めて認識させられたのは、やはり自分の知らないことの多さ、そして、より幅広い知識を身につけることの大切さでした。新人にとって、非常に有意義で貴重な研修となったことは間違い

ないと思います。2007年度までは座学と実地の両方の研修が1日で行われていたということですが、今回から2日に分けて内容を充実させて下さったことを含め、事務局のさまざまなご配慮に感謝申し上げます。

有馬 多佳子(英語会員)

2009年度 座学研修

6月7日、国際会議場の研修室にて新人研修(座学)が行われました。事務局から3名の先輩会員を講師として迎え、今年度と昨年度に入会をした新人会員13名が参加しました。今年度の新人研修は6月の座学と来月1月の実務研修があり、両研修の終了者には来年1月のジャパンガイドにてガイドデビューという大舞台が待っています。



研修は、今田会員から「HIGAの歴史と成り立ち」について、小原会員から「ガイドとしての心構えと仕事の流れ」について、田島会員から「HIGAの活動内容」について話を伺う事から始まりまし

た。それぞれの話を伺っているうちに、HIGAの会員としての自覚が芽生えていくのを感じました。

休憩の後、研修のメインイベントであるワークショップを2つのグループに分かれて行いました。ワークショップのテーマは、手配書を見ながらエージェントに電話をして内容を詳しく確認するロールプレイです。

講師をエージェントに見立て、参加者がそれぞれ考えた質問をして、手配書の不明な点をクリアにしていくという作業なのですが、ほとんどの参加者が旅行業未経験者で要領よく質問を進めていく事が出来ません。

しかし2時間ほどの練習を経て慣れてきたのか、徐々にですが、順調に質問が出来るようになったと思います。

ワークショップの間も、講師の方からは豊富なガイド体験から貴重なアドバイスをたくさん頂き、本当に参考になりました。

それぞれの会員はフリーランスではありますが、協会の活動を通して「縦と横のつながり」を持てる事は非常に心強いと思います。

「HIGAの会員として恥ずかしくない立派なガイドになるぞ!!」という思いを強くした研修でした。

講師の皆様、本当にありがとうございました。

村上 美穂(英語会員)

仕事の現場から①

再会と別れ

森本 琴絵（英語会員）

桜の花も散り始めた頃、日系米国人4名様をお迎えしました。日本の親戚の方からの急なご依頼です。家系図をFaxで送っていただき、親族の関係を把握しておかなければいけません。

30年ぶりの再会に、新幹線での到着を待つ間も緊張のひと時です。一日目は宮島へのご案内。日系の方は日本食に馴染んでいらっしゃるのですが、初めての穴子飯を「おいしい！」と『完食』して下さると本当に嬉しい。その後、ご親戚の墓参りの前に岩国の錦帯橋へ。そこでボランティアガイドさんを依頼されているとは聞いておりませんでした。その御高齢のボランティアさんが、ゆっくりと丁寧に説明して下さるのを通訳します。（急がないと、墓参りと広島市内での夕食の予約に遅れる...）予想以上に時間がかかり、事情をお伝えして引き返すことに。しかし...

佐々木小次郎の像の前でボランティアさんの足がびたりと止まる。冷や汗。『燕返し』のくだりでは、興味を示されてない米国ご一行に、宮本武蔵についての補足を通訳しながら更なる冷や汗がタラ〜リ。何とか、墓参りと親戚宅訪問を終え、その夜はプレゼントの交換や思い出話に花が咲きました。

二日目、平和公園のご案内とショッピング。日本料理店での最後の和やかな会食。二日間の食事場所とメニューを任せていただき、無事に終える事ができて何より安心しました。お別れの時間が近付くと又従姉妹のお二人が言葉少なに...。ほとんど英語を話そうとされなかった奥様ですが、ポケットから小さな紙切れを取り出され、短い英文を読まれると、お二人は抱き合って言葉になりません。無用の長物となった通訳者は、ただ、涙ながらにお二人を見守りました。

仕事の現場から②

熱く、温かく

赤松 知子（スペイン語会員）

私はHIGAに入会して4年目のスペイン語ガイドです。これまでにスペイン、メキシコ、アルゼンチン、プエルトリコからのお客様とご一緒しました。行き先は広島・宮島をはじめ岡山・倉敷、大阪などです。珍しいツアーとしては瀬戸大橋、大鳴門橋、明石海峡大橋を一日で巡ったことがあります。お客様はスペイン人で橋の設計技師のお二人。観光で日本に来たが、これらの橋は見逃せないとのこと。それぞれの橋で資料館を見学し、実際に橋を歩ける所は隅々まで見てカメラにも収め、「ほら、あそこ！」と、特殊な工法が施されていたのか二人で何やら話し合ったり、感心したりして堪能されていた様子でした。実は、私の時間配分が悪く、明石海峡大橋の資料館には閉館5分後に着いたのですが、何とかお願いして入れていただきました。お二人は私を責めずに“ Oh, gracias!! ”（やった、ありがとう!!）大喜びで見学されました。この方々に限らず、スペイン語圏のお客様からはせっかく来たのだから何でも見ようという気持ちが熱く伝わってきます。また、皆さんとても心温かで、ドライバーさんやホテル、お店の方にも「アリガト」「コンニチハ」と必ず言葉をかけておられます。言葉といえば、スペイン語圏の人は言葉遊びが好きです。「オコノミヤキはエコノミコ(経済的)」とか、バスの中で「皆さん、能はご存知ですか」と尋ねると待ってましたとばかり全員が満面の笑みで“No!”。別の方はタクシーの中から見えた看板を写真に撮りクスクス笑っています。ここには書けませんが、その看板はスペイン語では面白い意味になるそうです。他の言語を話す方々はどのようなのでしょうか。

私は熱く、温かいお客様とご一緒でき感謝しています。これからも安全で楽しくご案内できるようがんばります。

タクシー・ハイヤー・バス・トラベルは...

ISO9001:2000 認証取得

つばめ交通株式会社

〒732-006 広島市東区牛田本町4-5-10
配車センター 082-221-1955
<http://www.tsubame.co.jp/>



2008 年度第 3 回学習会

佐々木 洋子（英語会員）

食は旅の大きな楽しみの一つであり、通訳ガイドにとって欠かせない研鑽テーマである。

最初は、森本琴絵会員による「広島かき」。英単語のオイスターが意味する食用かきとアコヤガイとの養殖の違いから始まった。広島かきの特徴として殻は小さいが身は殻のわりに大きく肉重量指数は日本一。生産量は全国の6割弱。かき購入額も全国で広島市が一番とは驚いた。

かきによる食中毒はウイルス性で、ノロウイルスはかきの中では増殖しないのだが、かきは大量に水を取り入れる習性のため、生活排水の流入によって汚染された汽水域、海水域からの自然汚染による。話題は食中毒の対処法にも及んだ。

今後の課題としては環境づくり。えさになる豊富な植物プランクトン（赤潮のとは種類が違う）がかきの質と味を決めるので、太田川上流での「漁民の森づくり」などの努力がなされている。

次に、八幡毅会員による「お米について」。稲からできるのは食品ばかりでなく生活用品まで幅広い。広島で米といえば、中国山地の雪解け水が全国有数の酒米を育ておいしい広島の酒を生んでいる。また、稲作は地域の行事などの郷土文化を育み、米つくりのため森を作り今の日本の風景さえも生んだ。稲作のための溜池作りには古墳作りと同じ土木技術を使うそうだ。日本の主食である米を作ることはあらゆる分野に及び、文化、生活そのものであることをあらためて、認識できた。

最後は、恵南一子会員、三輪真理子会員による「食のおいしい話、コワイ話」。先に行われた会員向けアンケートも利用しての即ガイドに役に立つ内容だった。旅行者の中には、宗教や好み信条などで食べられないものがある方は案外多く、ガイドの気配りが必要である。第一に大切なのは事前に食の情報をもらうこと。ただ、アレルギーはありますかと問うた場合、「食べたことのないものは当然答えに入らない。例えば、日本そばをたべたことがなかったら前もって情報には出てこない、しかしアラフィラキシー・ショックは生命にもかかわるので、初めての人には食べさせないように」等、具体的な例が参考になった。

このあと柏博子会員により、会員が実際食事処に足を運んで味わった感想が書かれた「食いしん坊・グルメレポート」冊子の紹介がされた。



2009 年度第 1 回学習会

土井 由美子（英語）

6月14日、梅雨の晴れ間の日曜日、今年度最初の学習会は「日本人の習慣～ゆりがごから墓場まで」をテーマに行われました。

まず、堀益芳子会員による日本人の自然観とその文化的影響についての発表がありました。冒頭に日本と欧米の自然観の違いを、それぞれの国の文学に表現されたものから検証し、その後、日本人特有の「自然を理解し共存しようとする考え方」が、日本文化、特に季節ごとの行事やそれに伴って出される料理に、どのように影響しているかについてのお話がありました。



次に、貢藤悦子会員が日本人の通過儀礼について発表しました。日本人は生まれてすぐに、お宮参りなどの儀礼を経験します。そして成長の過程で七五三や成人式、結婚式や還暦などのお祝い事を経て、一人の日本人が他界する時までに行われる全ての通過儀礼は、日本人としてはごく当たり前のこととしてなされていることですが、実は日本文化を色濃く反映しているものだということを、改めて認識させていただきました。

最後に、マナー講師でもある中尾好美会員が、ビジネスシーンにおける好感度の高い立ち居振る舞いはどうすればよいのかについて、楽しく実技指導をしてくださいました。第一印象を大きく左右するものは、話の内容ではなく態度や言葉であるということで、好印象を与えることが出来るアイコンタクトや姿勢、お辞儀の仕方や正しい名刺交換の仕方などを教えていただきました。初対面でマイナスの印象をもたれてしまうと、プラスの印象に変えるためには70時間必要だと教えていただき、第一印象がいかに重要かを再認識しました。

日本人として生まれて、何気なくやってきた行事や通過儀礼、当たり前だと思って食べてきた日本料理にこそ、外国のお客様に伝えたい日本文化があるのだと感じ、外国から短期間の旅行で来日されるお客様と接する仕事だからこそ、好感度が高い立ち居振る舞いが常に出来るように努力しなければいけないと実感した学習会でした。

焼きがきにこだわって六十年
宮島一の創業を誇る

<http://www.yakigaki-no-hayashi.co.jp>

焼がきの
はやし





米国滞在記

渡辺 直子（英語会員）



ピッツバーグの街

機会があって、2006年11月から2008年7月まで家族（夫と小学生の娘）と共にアメリカのピッツバーグで過ごしました。「ピッツバーグに住んでいた」というと微妙な反応が返ってきます。「聞いたことはある」と思いますが、アメリカの東部内陸に位置し、緯度は岩手県くらい、冬は気温がマイナス10度以下に下がります。人口は30数万人、昔は鉄鋼の街として栄えましたが、現在は医療、金融、大学研究所の街として知られています。

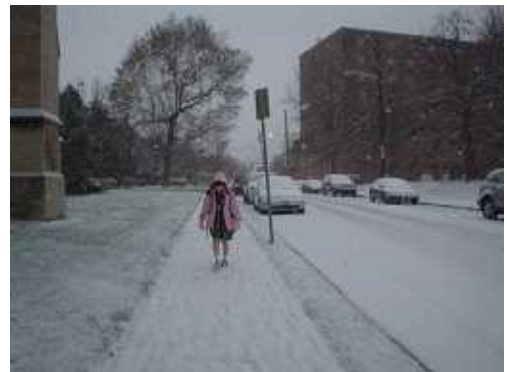
滞在中に、無料英会話学校に5ヶ月、大学付属語学学校に3ヶ月、大学に1年間通いました。英会話学校と語学学校はいろいろな国の人が来ており、楽しかったし他の国の文化を知るいい機会にもなりました。が、大学に入ったと同時に、打ちのめされることになりました。

地元のカトリック系の女子大にパートタイム学生として入ったのですが、学生のほぼ9割が白人の20歳前後の女子学生。教室に入ると、「あなた誰？保護者？」という目で見られる。しかも彼らの話す言葉がほとんど理解できない。授業にだけは何とかついていかなければ、と毎回授業後に残って、先生に授業と宿題の確認をしましたが、きっと悲愴な顔をしていたと思います。それでも宿題は何とかこなしたのですが、問題は授業時間内での準備なしの発表。

Writingの最初の授業では、手渡されたStephen Kingのエッセイを10分で読み、「ホラー映画を見た時の自分の反応について発表せよ」というものでした。エッセイを読みこなすのに精一杯で一行も書けないまま、「はい発表して」という無情の声。もともとホラー映画は避けてきた分野なので、脳の引き出しの中を探すのに必死。人の意見を聞いている余裕はなかったのですが、それ以上に他の人が何を言っているか分からない。映画の題名も邦題で言われればまだ何とかなったのでしょうか、何を言っているのかちんぷんかんぷん。悲しかった。

私は唯一憶えていたB級ホラー映画の内容をしどろもどろ発表したのですが、発表したとたん、「その映画は でしょう」「いやそれは**だ」と本人と関係ないところで議論が始まりました。発表した本人は題名も憶えていないし、何についてみんなが話しているか理解できず、おろおろするばかり。「早く次の人に回して！」と心の中で叫び続けていました。

という綱渡りのような大学生活で、一番きつかったのは年齢差でした。あまりにもみんなと違いすぎると身の置き場がなく、教室に入る前のあの心臓がきゅっとなる感覚は今でも憶えています。何とか単位は取得しましたが、未だに「楽しかった」とは言えない、トホホな経験でした。



雪の日の登校

[訂正とお詫び] HIGA ニュース 33 号の宮島の歴史探索と「禅」・「茶道」体験無料ツアーにおいて、国土交通省中国運輸局実施と記述しましたが、これは「広島・宮島・岩国地域観光圏推進協議会」が実施する観光圏整備事業の間違いでした。訂正しお詫びします。

宮島銘菓
大正十四年創業



宮島 藤い屋

広島県廿日市市宮島町 1129
TEL (0829) 44-2221
<http://www.fujiiya.co.jp>



直売店

宮島本店・広島駅アッセ店・広島駅新幹線名店街店・そごう広島店・そごう呉店・天満屋アルパーク店・広島空港天満屋店・広島駅前福屋店・呉駅クレスト店・駅売店

旬の話題を求めて宮島を歩きました。2回に分けてご報告します。

【弁財天大祭】



宮島に向かった6月17日は大願寺の弁財天大祭の日。年に一度ご開帳される弁財天様は、福富、音楽、知性、弁論の女神。受付でご開帳札、式次第とくじの引換券を頂き、まずは、弁財天様を拝観しました。凛々しく優しいお顔でした。

8時からご開帳が始まり、宮島太鼓、平家琵琶の奉納、大護摩修法、大般若転読、御詠歌、舞踊奉納、平山住職のご法話と続きます。大護摩修法では、力強い読経が響き、護摩木がパチパチと炎高く燃え上がり、迫力満点でした。ひやしあめ、杓子せんべい、そうめんのご接待もあり、旅館組合、商工会によるフリーマーケット、町内有志による植木展もが開かれ、まさに島をあげての信仰と娯楽が調和した楽しいお祭りです。

【町家通り】

もみじ饅頭、焼きガキ、お好み焼きのおいしい香り漂う表参道商店街に平行して走る町屋通り。ここ数年、古い町家を改造したレトロでモダンな店舗や宿が次々と姿を現し、宮島歩きの楽しさを膨らませています。数年前から町家通りの軒先に掛かる灯籠。今、「江戸の判じ絵」が描かれています。江戸時代に人気のあった「絵を見て解くクイズ」。例えば、帆と樽の絵で、「ほたる」と解きます。年に数回、灯籠の絵を変えるところ。宮島の心意気を感じます。



【バックパッカーズ宮島】

宮島口棧橋横に昨年オープンした格安宿泊施設。3階建ての白い建物。和室相部屋と2段ベッド式の部屋で最高70名宿泊可。いびき対策に耳栓が販売されていました。パイリンガルの表示が充実し、外国人客を多く受け入れられています。広島島の祭り「とうかさ」に浴衣を着付けてあげたり、BBQパーティでたこ焼きを作ったりとイベントも色々工夫されているそうです。

古い伝統を守りながら、時代の変化にも応じて進化していく宮島の姿を今後も見守っていきたいと思います。次回のレポートもお楽しみに。

【ご協力ありがとうございます】

HIGA 賛助会員ご入会の皆様（2009年7月現在、順不同、敬称略）

団体会員

広島紅葉ライオンズクラブ
 広島商工会議所
 JTB 協定旅館ホテル連盟広島支部
 広島県医師会
 つばめ交通(株)
 (有)はやし
 (株)オムエル
 広島トヨペット(株)
 (株)藤い屋
 (社)広島県観光連盟
 カフェ ポンテ

個人会員

市川 太一
 河井 克行
 延本 真栄子
 清水 考子
 田島 謙治
 畑 博行
 ことば工房

くらわんか
 藤井 倫子
 先花 智恵子
 森田 釈代
 小辻 一洋
 花やしき
 古谷 敏明

山本 光子
 海生 直人
 三段峡ホテル
 龍山 壬生子
 ぎゃりい宮郷
 河井 あんり
 三上 貴教

賛助会員としてご協力くださる団体、個人の方を募集しています。ぜひこの機会にご入会をご検討くださるようお願い致します。年会費は一口につき団体会員2万円、個人会員5千円です。団体会員には、HIGA ニュースに広告掲載の特典があります。

お申し込み、お問い合わせは、当協会事務局 082-245-8346(月～金、11～16時)まで。

本紙へのご感想・ご意見をお寄せください。HIGA 事務局へ郵便・電話・FAXまたはEメールでどうぞ。

Eメール：higa@urban.ne.jp ホームページ：http://www.j-higa.net



広島平和記念公園対岸。元安橋たもとのオープンカフェ

本格イタリアンが味わえる店

Caffè Ponte
 カフェ ポンテ

【住 所】広島市中区大手町1丁目9-21
 【予約専用電話】070-5679-9134
 【営業時間】7:30～22:00 年中無休